



購読料 年8,000円
送料共 但し、会員
は会費に含まれる

発行所
京都府保険医協会
〒604-8162
京都市中京区烏丸通蛸薬師
上ル七観音町637
インターワンプレイス烏丸6階
電話 (075) 212-8877
FAX (075) 212-0707
編集発行人 久保 佐世

主な内容

- 連載開始！診療報酬改定ごみる (2面)
- 新専門医制度 中小病院に迫られる厳しい対応 (2面)
- 地区医師会との懇談会(山科、綴喜) (3面)

ご用命はアミスまで

- ◆医師賠償責任保険
- ◆休業補償制度 (所得補償、傷害疾病保険)
- ◆針刺し事故等補償プラン
- ◆自動車保険・火災保険

☎075-212-0303

他院退院1カ月以内が算定可に

特定疾患療養管理料

会員実態調査・署名運動が実る

3月4日、厚生労働省は2016年度診療報酬改定について、告示・通知した。この中で「退院後1カ月以内の特定疾患療養管理料の算定制限」は、入院していた医療機関に限られる扱いが明記された。これは、かねてから会員の強い改善要求を受け、厚労省と粘り強く交渉してきた結果であり、運動の成果である。

協会は14年12月、内科系の標榜科目がある診療所管

理者の会員1230人に対して特定疾患療養管理料に関するアンケートを実施した。この中で、「算定制限を廃止すべき」50%、「自院の入院に限るべき」31%の回答を受け、15年3月17日、厚労省への改善要請行動を行った。

全国保険医団体連合会に対しても、この重要性を強く訴えた。保団連からの要請を受けて34都県の協会が

アンケートに協力・実施し、5081人の回答を得た。ここでも、「算定制限を廃止すべき」45%、「自院の入院に限るべき」40%の結果となり、保団連も9月16日、厚労省交渉を実施し、改めて改善を訴えた。

結果、昨年3月段階では「初めていただいた意見だ」と回答していた厚労省もこの問題に理解を示し、今回の改善に至った。

また協会は昨年9月、全会員に16年度改定に関する署名運動を提起。11月17日、集まった要請書264筆を携え、再度厚労省への改善要請行動を行った。

その結果、ここで掲げた要請項目とあわせて、複数の医療機関で異なった疾患に対して在宅自己注射指導管理料を行っている場合、必ず

複数の医療機関での自己注射の算定も改善

この医療機関でも、在宅自己注射指導管理料を算定できるようになったなど3項目の改善が実現した。さらに、在宅自己注射の導入にあたって「週2回以上の教育期間をとる」とされていたが、今回の改定で「週」が

削除され、現場の声を反映した算定要件に改善された。また京都府の理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会と協会の4者でまとめた「リハビリテーション点数に関する共同要請書」中、要介護者の外来維持期

リハビリの算定打ち切りが2年間延期された。廃用症候群のリハビリ対象と摂食機能療法の対象患者の拡大も実現した。

要請項目以外に口頭で交渉をした「入院中の患者の他医療機関受診の取扱い」減算率の緩和についても改善された。

今回の改善は、会員の要求、現場の切実な意見を、アンケート結果と会員署名という形で集約し、これを厚労省に提出することも

に、懇談して説明、改善を要請するという一連の運動の成果である。会員各位に感謝するとともに、今後とも協会が実施する診療報酬改善要求運動にご理解、ご協力をいただきたい。

2面にて
「2016診療報酬改定ごみる」
を連載開始

寸評

全国世論調査から地域スパーの顧客相手

まで、世の中アンケートの洪水である。突然舞い込むダイレクトメールでの医療アンケートに不快な思いを抱かれた同輩も少なくないのでは▼協会において各種アンケートを実施している。送る側と受ける側、立場が変わると対する心情も異なってしまうのが人の性であるうか。それ故、実施する側となった場合、内容について侃々諤々の議論、試行錯誤が繰り返される▼今秋の保団連医療研フォーラムに向けての全国アンケートでは、すでに第10案が提示、検討中だ。回収率を上げるためには、誰もが気軽に答えられる簡潔なものが望ましいが、内容が乏しく、実態を反映しないようでは本末転倒となる。難しい▼先日記入した在宅医療に関するアンケート。往診、看取りの数を問われたが、特養等の配置医師としてのものは除くことあった。当地では地域崩壊が進み、人材不足で在宅介護サービスも危機状態。都市部に比して入りやすい施設指向は高まりの一途。実績型在宅療養支援診療所である当院の、要件を満たす看取りの比率は、自宅一人対特養11人である。当然のこととして特養への「緊急の往診」も多くを数える。これらは集計の対象とならず、個々の実情を反映した結果は得られない。多様な立場への配慮が求められる。(舌鉄庵)

主張

すでに「案内のように『保険で良い医療』を実現する医療実践について考える」『開業医療の復権』をめざして」というメインテーマで、第31回保団連医療研究フォーラムが、23年ぶりに京都で開催され、演題応募締切の3月末日は迫っている。

いかにも長いテーマに、協会の苦慮がにじみ出る。初めは、国民皆保険制度や医療提供体制の先行きの緊迫した危うさから、地域医療を担ってきた『開業医療

療の復権』が掲げられた。しかし、政治家やマスコミに煽られた、一般の方の誤った開業医療の増幅を危惧し、勤務医がともに考えていただけのテーマに、相

対して在宅自己注射指導管理料の改善に至った。

収入で暮らす子育て貧困世代が約14%に達し、92年からの20年間で倍増したという調査結果が報道された。必要な医療も十分な助成がなければ受けられず、保険

に躊躇いながらも出席してきたが、出席者が少なく勿体ない。協会の方針に基づくテーマに沿っているため、更に客観的に主張を検証して学び、より良い方向

で学力を保障する家庭教師のポランテアを地域で確かに重ねている。

思えば、新安保法案に賛否はあるとしても、国民主権から程遠い逸脱した進め方に異議を唱える先頭に立ったのも若者達であった。数のちからをもつ団塊世代のひとりとして、社会に目をこらし、学ぶ機会を捉え、若者とも手を携えて

できることから進めたい。大学時代の朋友は、地域に根ざし信頼の厚かったクリニックをたたんで準備を整え、昨夏から福島の病院で働いている。

調査は全国保険医団体連合会の全国調査の一環として、府内で昨年12月2日から2週間実施。FAXで1770医療機関に送付し、2886医療機関から回答を得た(回収率16%)。

結果では、この半年間に「経済的理由による」と思われる治療中断があった」が30%、「医療費負担を理由に検査や治療、投薬を断られた」ことがあるのは45%にのぼっている。

治療中断事例の病名は多い順に、糖尿病、高血圧症、脂質異常症など生活習慣病があげられているが、中には悪性腫瘍など生命にかかわるものも含まれている。断られた検査や治療では、血液検査やレントゲンなどが多くあげられた。

「薬が切れているはずなのに受診に来ない(185)」「受診回数を減らしてほしい(168)」「ジェネリック希望など薬代負担を減らしてほしい(159)」などと言われる例が目立っているが、「専門機関の紹介や入院をすすめたが拒否

ともに学び、ともに手を携えて

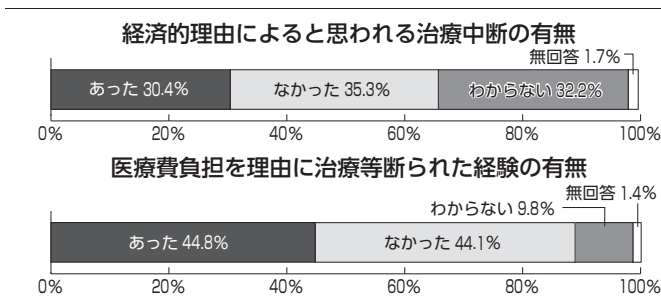
当の議論の末、決まった経緯を伝えたい。

さて、協会では、講演会や演者を推薦いただき、虚等が適時開催されており、これまで一会員として、

へ軌道修正して進むのが望ましい。会員からもテーマや演者を推薦いただき、虚等が適時開催されており、これまで一会員として、

先口、生活保護費以下の

医療が役に立たない生きにくさを慮る。保険医が、そのような世帯になんかできるのか、途方にくれる。しかし、若者は、学力不足による負の連鎖を断ち、慈し



「薬が切れているはずなのに受診に来ない(185)」「受診回数を減らしてほしい(168)」「ジェネリック希望など薬代負担を減らしてほしい(159)」などと言われる例が目立っているが、「専門機関の紹介や入院をすすめたが拒否

また、47%が「この半年間に患者一部負担の未収金があった」と答えている。さらに、今検討されている75歳以上の患者窓口負担の2割への引き上げについては、75%が「受診抑制につながる」と懸念している。

政府は「社会保障費の充実・安定化」を名目に消費税率を引き上げたが、この4月からは紹介状なし大病院受診の定額負担導入や入院時の食事負担引き上げが実施される。さらに、上記のような後期高齢者の窓口負担2倍化の他、70歳以上の患者負担上限額引き上げ、かかりつけ医以外を受診する際の定額負担導入や入院時の居住費徴収など負担増メニューを掲げている。これ以上の負担増は、患者の受診に厳しい抑制をかける懸念がある。協会はこれをストップするための患者署名に取り組んでいく。

また、47%が「この半年間に患者一部負担の未収金があった」と答えている。さらに、今検討されている75歳以上の患者窓口負担の2割への引き上げについては、75%が「受診抑制につながる」と懸念している。

政府は「社会保障費の充実・安定化」を名目に消費税率を引き上げたが、この4月からは紹介状なし大病院受診の定額負担導入や入院時の食事負担引き上げが実施される。さらに、上記のような後期高齢者の窓口負担2倍化の他、70歳以上の患者負担上限額引き上げ、かかりつけ医以外を受診する際の定額負担導入や入院時の居住費徴収など負担増メニューを掲げている。これ以上の負担増は、患者の受診に厳しい抑制をかける懸念がある。協会はこれをストップするための患者署名に取り組んでいく。